日本野鳥の会
ウトナイ湖サンクチュアリ
2023年度 活動報告

Annual Report 2023

Lake Utonai Sanctuary

2023.4-2024.3
April 2023 - March 2024

2023年度　ウトナイ湖サンクチュアリ スタッフ一同

- ウトナイ湖サンクチュアリの「伝える活動」
- 勇払原野の保全活動
- 数字で見る2023年度
- 皆さまに支えられて

公益財団法人
日本野鳥の会
Wild Bird Society of Japan

ウトナイ湖サンクチュアリの「伝える活動」

ウトナイ湖で秋の野鳥を楽しむ

9月30日、苫小牧支部と共催で、越冬地へ渡る途中にウトナイ湖に飛来するマガンなどの水鳥観察を目的とした、「ウトナイ湖 秋の水鳥観察会」を開催しました。当日は道内外から36人が参加し、マガンやヒシクイなどの秋の渡り鳥のほかに、オジロワシやダイサギ等を観察しました。カイツブリが採餌のために潜水を繰り返す様子が目の前で見られた際には、参加者から歓声が上がりました。「水鳥の種類や見分けの説明がよくわかった」「これからバードウォッチングを趣味にします」など嬉しい感想も聞かれ、スタッフの解説つきの観察を通して、水鳥についてさらに興味をもっていただくことができました。今後も地域の支部と連携して、観察会等のイベントを開催していきます。

見られた野鳥の解説をするレンジャーと支部会員

誰でも上手に野鳥の絵が描ける!?

秋の渡り鳥の飛来時期にあわせたイベント「ウトナイ湖・渡り鳥DAY」。今年は野鳥図鑑画家の谷口高司氏を講師にお招きして、「タマゴ式鳥絵塾」を開催しました。当会オリジナルの図鑑『新・水辺の鳥』『新・山野の鳥』の絵を手掛けた谷口氏から、絵の描き方を直接教えてもらえるということもあり、野鳥好きな皆さんに加え、普段から絵を描かれている方の参加もありました。子どもも大人も、真剣な眼差しで説明を聞きながら、下描きをした後、色を載せてカワアイサとシマエナガの絵を描きました。完成したその出来栄えに皆さん大満足で、「上手に描けて嬉しかった」「先生の説明がわかりやすかった」などの声が聞かれました。絵を通して、野鳥にさらなる興味を持ってもらえたら嬉しいです。

図鑑に載せられそうなシマエナガの絵が完成

自然を学び、体感できるプログラムを提供

ネイチャーセンターでは有料プログラムを改訂し、より多くの方がウトナイ湖の自然を学び、体感していただけるようになりました。主に学校の自然学習で利用される「自然を学ぶプログラム」としては、これまで提供してきた課題を解きつつ散策する「ウォークラリー」や、生き物を探して記録するとオリジナル図鑑をつくることができる「ネイチャーブックづくり」を用意しました。また、「自然を楽しむプログラム」では、新たにレンジャーがじっくりと案内する「プライベートツアー」「プレミアムツアー」を用意し、来訪される方の時間に合わせたプランを設定しました。2023年度には、個人4件7人の方と、9団体265人の方々にプログラムを提供することができました。（そのうち、苫小牧市の自然ふれあい事業：3件169人）

少人数でもご案内できるツアー。
1時間か2時間で見どころをご案内する

つながったウトナイ湖3施設

ウトナイ湖には、野鳥や自然好きの方が訪れる当会の「ネイチャーセンター」のほかに、自然学習などで活用されている「ウトナイ湖野生鳥獣保護センター」があり、また多くの観光客が訪れる「道の駅ウトナイ湖」も湖畔で営業されています。ウトナイ湖の自然をより深く実際に体感して知っていただくために、これら3施設をつないだ「スタンプラリー」を共同で開催しました。10月の1か月間の間に3施設を巡りスタンプを集めると、野鳥グッズなどがプレゼントされるこの企画には300人が参加され、そのうち246人の方が3施設の訪問を達成しました。アンケートからは、このイベントに参加された近隣市民を含む約6割の方が、ネイチャーセンターを初めて訪れていたことがわかり、また観察路やネイチャーセンターの整備等、今後の活動に活きるご要望もいただくことができました。

スタンプを3か所で押して、
ラリー達成。
ネイチャーセンターは
シマエナガのスタンプ

ウトナイ湖の活動を支える ボランティア活動

当会では1981年にウトナイ湖サンクチュアリを設置して以降、ネイチャーセンターや観察路を整備し、環境省や北海道、苫小牧市と協力して維持管理に努めています。

しかし自然環境が豊かであるため観察路は草や木の枝で覆われやすく、43年を経過したネイチャーセンターも含めて、維持管理するためには非常に多くの資金と労力が必要です。そこで少人数の当会職員の力だけでは実施できない管理活動については、企業のCSR活動や地域の団体のボランティア活動の力をお借りして実施しています。

2023年度には、7団体のべ150人の皆さんに観察路を覆う草刈りや木の枝払いのほか、ネイチャーセンターや観察路周辺の清掃活動や、サンクチュアリ内に侵入している外来植物の抜き取り作業などを行なっていただきました。

観察路を覆う草木を整理する
「アイシン北海道株式会社」の皆さん

勇払原野の保全活動

勇払原野の貴重な自然環境

勇払原野は、石狩湾から太平洋に至る石狩低地帯南部に位置する平野です。かつて広大な湿地や草原が広がっていましたが、開発によりその多くが失われてきました。わずかに残されたウトナイ湖や弁天沼周辺などでは、現在も豊かな自然環境が残っており、鳥類をはじめとする野生生物たちの重要な生息地となっています。

この湿地や草原、森林環境を併せ持つ勇払原野一帯では、これまでに約270種の鳥類が確認されており、国内では絶滅のおそれのあるチュウヒやアカモズなどにとって、数少ない繁殖地の1つにもなっています。しかし、法的な保全は不十分で、現在も開発が進められるなど、その存続が危ぶまれています。当会では勇払原野の保全を通して、これらの絶滅危惧種の保護活動を進めています。

当会が進めている勇払原野保全構想の区域

2023年度に実施した調査

2023年度は、4月～8月上旬にチュウヒの繁殖状況調査を31回、8月下旬～冬期間に渡り鳥の飛来状況調査を13回、合計で44回の調査と巡回を実施しました。

チュウヒの繁殖状況調査は、チュウヒが活発に活動する時間帯に調査をする必要があるため、朝4時にネイチャーセンターを出発して調査地に向かいます。また、チュウヒはとても神経質な鳥なので、刺激して繁殖活動に悪影響を与えないよう、窓に暗幕を張った車の中から慎重に調査を実施しました。朝3時前に起きるのはとても大変ですが、小鳥たちがさかんにさえずる早朝の勇払原野をチュウヒが舞う姿はとても優美で、この風景をいつまでも残したいという気持ちを起こさせてくれました。

目	科	種	環R ※1	希少種 ※2
カモ	カモ	亜種ヒシクイ	VU	
		亜種オオヒシクイ	NT	
		マガン	NT	
ツル	ツル	タンチョウ	VU	●
チドリ	セイタカシギ	セイタカシギ	VU	
	シギ	オオジシギ	NT	
		タカブシギ	VU	
		ハマシギ	NT	
		オオセグロカモメ	NT	
タカ	ミサゴ	ミサゴ	NT	
	タカ	ハチクマ	NT	
		オジロワシ	VU	●
		オオワシ	VU	●
		チュウヒ	EN	●
		ハイタカ	NT	
		オオタカ	NT	
キツツキ	キツツキ	クマゲラ	VU	
ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	VU	●
スズメ	モズ	アカモズ	EN	●
	センニュウ	マキノセンニュウ	NT	

※1 環境省レッドリスト(2020)
※2 種の保存法に基づく国内希少野生動植物種

2023年度の調査で見られた絶滅のおそれのある鳥類の一覧

チュウヒの繁殖状況調査をするレンジャー

チュウヒをはじめ多くの野鳥が利用する弁天沼

勇払原野のチュウヒの生息状況

2023年度のチュウヒ繁殖状況調査の結果、7つがいを確認し、そのうち3つがいの繁殖の成功を確認しました。調査できなかったエリアもあり、正確なつがい数は不明ですが、おそらく10つがい前後が利用していたのだと思われます。

当会が全国で2018～2020年に実施したチュウヒのつがい数調査の結果、勇払原野はサロベツ原野に次いで多いことが分かりました。しかし、繁殖に適したまとまった面積の湿地は、現在も開発行為によって少なくなっています。産業活動と共存しながら勇払原野でチュウヒの個体数を維持・増加をさせるためには、まずは企業や市民の皆さんと話し合い、自然保護との折衷点を見出すことが大切です。そして現在残っている生息地を保全するだけでなく、生息に適した湿地を復元する「ネイチャーポジティブ」の方法を模索することも重要です。当会では生物多様性地域戦略を策定している苫小牧市や北海道とも協議しつつ、勇払原野に生息するチュウヒの保護活動を実施していきます。

いつまでも
チュウヒが舞う勇払原野を
残してくため
活動を続けていきます

開発問題への対応

勇払原野の多くは、工業地帯である苫小牧東部地域に属していることから、常に開発計画が起こる地域です。今年度も当センターには、多くの企業から実施予定の事業と希少鳥類の生息地保全の両立のためのご相談がありました。さらに、勇払原野で計画されている風力発電施設建設問題の対応のため、地域の自然保護団体が主催する勉強会に講師として参加しました。計画地周辺に住む方々から計画を進めている企業の方まで、多くの理解が得られるよう、今後も勇払原野の自然の重要性を広く伝えていきます。

勉強会で勇払原野の自然について講演するレンジャー

Welcome!

より多くの方に来ていただくために①

HPをリニューアル！

ネイチャーセンターのホームページをリニューアルしました。ウトナイ湖の自然やイベント等の紹介だけでなく、ネイチャーセンターを拠点にして実施している当会の希少鳥類保護事業の紹介などの情報を拡充し、スマートフォンでも見やすい仕様に変更しています。また、観察路の地図を更新して距離を把握しやすくしたほか、歩きながら現在位置を把握できるように、オンラインで現在位置を表示できる地図も掲載しています。

観察路と位置情報が
スマートフォンで確認できる

観察路地図はこちら

数字で見る2023年度

■ネイチャーセンターの実績

利用状況	利用者（来館者）数 （団体、ボランティア、行事等を含む） ※サポーターや関係者を除く	6,471人（うち開館日数117日の個人来館者数 5,973人） （個人一般来館者数：5,966人、有料プログラム対応　4件 7人）
	団体対応（ボランティアを含む）	21件 433人 （団体一般来館 1件18人、有料プログラム対応 9件 265人、ボランティア 11件 150人）
保護・保全	鳥インフルエンザ対策の監視巡回	40回
	タンチョウ動向調査	2回
	開発問題対応	7回
	ワシ類カウント調査	5回
	勇払原野鳥類調査および巡回	44回
	日別出現鳥類記録調査	240日
	観察資源調査（自然情報マップ発行）	12回
	環境管理	12回
普及教育	観察会等	4件 69人
	ボランティア活動	11件 150人
	サポーター活動	32件 26人登録
	講演・イベント等	4回
広報	ホームページ更新	174回
	SNS（Facebook, Instagram, X）更新	539回
	『野鳥』誌掲載記事	9回
	雑誌・新聞等掲載	31件
支援等	ウトナイ湖ファンクラブ	個人81人、法人6団体
	ファンクラブ通信発行	2回
その他	委員会	4回
	取材対応	20件

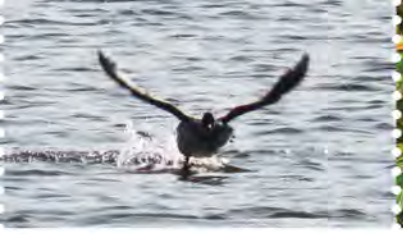
■ウトナイ湖野生鳥獣保護センターの実績
（苫小牧市からの受託）

自然観察指導業務	団体来館者への対応	13団体 412人
	自然観察会の実施	3回 80人
	渡り鳥フェスティバル	2回 297人
	ショートプログラムの実施	12回 212人 ※残り3回は展示解説の作成
展示教材作成業務	自然情報収集及び掲示	12回
ボランティア育成業務	講演・研修会の実施	6回 38人
	ボランティアコーディネート	53回
鳥類調査	全域水鳥カウント調査	12回
	ガン類個体数変動調査	6回
	ハクチョウ類生息調査	通年
	ウトナイ湖周辺鳥類調査	1コース 5回
広報情報発信	通信紙の作成（ウトナイ湖通信）	12回
	SNSへの情報提供	101回

来館者でにぎわうネイチャーセンター

CSR活動で共に作業をしたアイシン北海道株式会社の皆さん

オオアワダチソウを抜きとる株式会社三五北海道の皆さん



■来館者数の推移

2023年度は、昨年までよりも来館者数が多い6,400人を超える方がネイチャーセンターを利用されました(図1)。コロナ禍以前の2018年からの開館1日あたりの個人来館者数を月別で比較すると、今年度は春と秋に来館者数が増える傾向は変わらないものの、4月を除いてすべての月でコロナ禍以前よりも多くなっていました(図3)。

来館者の地域別の推移を見てみると、昨年度よりも道外からの来館者が増えており、国外からの方については2018年よりも多くなっていました(図4)。

インバウンドや道外からの観光客の回復に加え、ネイチャーセンターの修繕や展示更新、販売物の拡充などにより、たくさんの方が来館されるようになったと思われます。これからもイベントの開催や情報発信を通して、市民の方から観光で来られる方、そして自然が好きな方まで、皆さんが立ち寄りたくなるネイチャーセンターにしていきたいと考えています。

図3 開館1日あたりの一般来館者数 2018~2023年度の比較

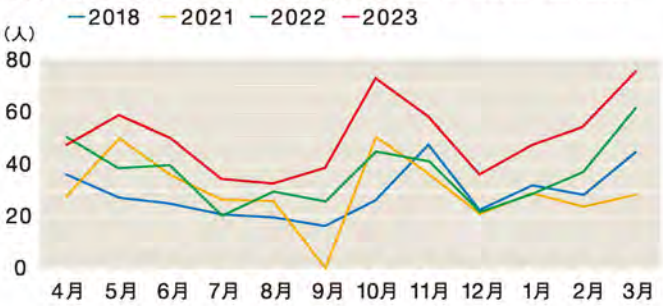


図4 地域別個人来館者数の推移 2018~2023年度の比較

図1 来館者合計人数

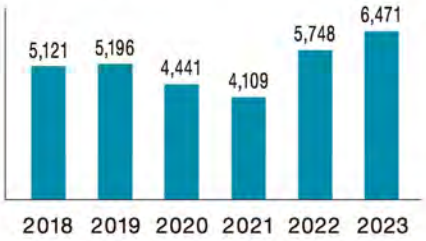


図2 一般来館者合計人数

※一般来館者数：来館者数から関係者やボランティアの人数を引いた人数

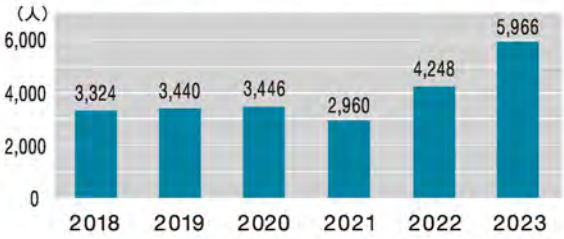
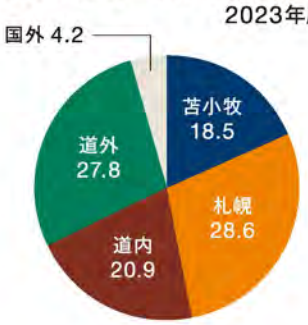


図5 地域別一般来館者数の割合

2023年度



Welcome!

より多くの方に来ていただくために②

当会のオリジナルグッズを販売! 新商品も!

ネイチャーセンター館内では、当会オリジナルの長靴や寄付つき「千人の森」Tシャツ、しおりなどの商品に加え、図鑑『新・山野の鳥』『新・水辺の鳥』のイラストでおなじみの谷口高司氏の商品なども販売しています。2023年度は多くの皆さまにお買い求めいただき、その収益を当会の自然保護活動に充てることができました。今後も多彩な商品の販売を予定しておりますので、ご来館の際はぜひご覧ください。

図鑑などの書籍も販売

「千人の森」Tシャツ

＼皆さまに支えられて／

「サポーター」と一緒にウトナイ湖を守る

ウトナイ湖を含む勇払原野の自然環境を守るため、私たちは生き物を調査し、ネイチャーセンターを訪れた方とお話をしたり、イベントを開催したりすることで、保全の重要性を伝えています。このような多岐にわたる活動のサポートや、拠点となる施設の維持管理や観察路の整備などを支えてくださるのが「ネイチャーセンター・サポーター」の皆さまです。ウトナイ湖サンクチュアリができた1981年から現在まで長年支えてくださってきた皆さまに加えて、2023年度は新たに小中学生、高校生も加わり、総勢26名の皆さまにサポートいただいています。

鳥獣保護区内の森林管理のため、樹木の直径を測るサポーターの皆さま

ウトナイ湖ファンクラブ

「ウトナイ湖ファンクラブ」は、当会のウトナイ湖や勇払原野の自然環境を末永く守るための活動を支えていただくために設立した賛助会です。現在、法人6団体、個人81名の方が会員となってくださっています。皆さまの会費は、鳥類調査にかかる費用や、自然の現状や守る活動について伝えるための展示作成費、そして観察路やネイチャーセンターを多くの方に利用していただくための整備費などに、全額を充てさせていただきます。

Before

After

雪止め

ウトナイ湖サンクチュアリについて

日本野鳥の会は1970年代後半に、自然保護や環境教育の拠点となる「サンクチュアリ」をつくろうという運動を開始しました。この運動により1981年には、全国から寄せられた約1億円の募金をもとにして、北海道苫小牧市のウトナイ湖に国内第1号のサンクチュアリ「ウトナイ湖サンクチュアリ」を開設しました。そして、湖畔には「ネイチャーセンター」を開館し、専属職員「レンジャー」を配置して市民をはじめ多くの方に自然体験や学びの場を提供しています。

サンクチュアリの開設から40年以上が経過し、その間にラムサール条約湿地への登録や千歳川放水路計画の中止など、大きな成果を残すことができました。近年では2000年から2006年にかけて策定した「ウトナイ湖・勇払原野保全プロジェクト」の保全構想に基づき、絶滅のおそれがあるチュウヒやタンチョウ、オオジシギなどが生息する、野鳥の重要生息地（IBA）であるウトナイ湖と、その一帯を有する勇払原野の豊かな自然環境保全にも取り組んでいます。

公益財団法人 日本野鳥の会 **ウトナイ湖サンクチュアリ**

ネイチャーセンター

開館：土日祝日 9：30～16：30 ※平日は休館

〒059-1365 北海道苫小牧市植苗150-3

☎ 0144-58-2505（火・水曜日除く）

FAX 0144-58-2521 ✉utonai@wbsj.org

詳しくは ウトナイ湖 ネイチャーセンター 検索

URL：https://utonai-nc.sakura.ne.jp/

Facebook、Instagram、X（旧 Twitter）も開設しました。

日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ 2023年度活動報告 発行2024年7月